



私が受けた盼盼の第一印象はまさに典型的な陕北の少女といったものでした。初めて出会ったその日は、万物が蘇り、柳の枝が芽吹き始めた早春の季節で、生気がいたるところ満ち溢れていました。安塞の竜泉村のはずれで、女の子が2人、石の碾き臼に座って何かひそひそと話していました。丸顔の女の子が乱れた髪の毛が被さった目で私を見つけ、私が他所から来た人間だと分かったようでした。この子は赤い林檎を手にしてとても可愛らしかったのです。私は、石臼の辺りや崩れた窑洞の前で彼女達の写真を何枚か撮りました。

私が村を去ろうとしてふと気が付くとこの子が後を付いてきています。私が振り返ったのを見ると女の子が言いました。「写真送ってもらえるの?」私は少しビックリしました。初めて自分から写真がほしいという子に出会ったのです。私は原則として撮った写真は全部、子供たちに上げることにしていました。この広い空の下で私達はきっと縁があるのでしょう。私は直ぐに答えました。「大丈夫。次に来る時はきっと持ってきてあげるよ。」女の子は嬉しそうに手を振ってくれました。

同年8月中旬、私は再び竜泉村にやってきました。あ



ちこち捜し回って、やっと村の子どもの案内で村はずれの黄河の砂洲に下り立ちました。牛の見張りをしている子供たちの中に、盼盼という女の子を見つけました。ほかの子同様牛の番をしており、しかも、3、4頭の牛の番をしていました。着ている服装が前回とは全く異なっていましたので暫くじっと見て、やっとこの子が春に知り合った女の子に違いないと分かりました。小さくなった衣服に汚れた上着を着、髪の毛はぼさぼさで直ぐには分からなかったのです。

けれども盼盼の文字は角ばった、とても整ったものでした。確かに誤字と当て字があるものの当地の三年生の中では比較的よい水準といえるでしょう。盼盼の夢は大きくなったら、歌手のスターになりたいとのこと。小さいながら志の高い子です。私は、盼盼が自分の夢を実現させられるかずっと気に掛けているのです。 田井訳

